

令和6年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	4,647
5	27	7,146
6	26	5,864
7	26	4,942
8	28	7,123
9	25	6,101
10	27	6,187
11	26	8,355
12	23	3,675
1		
2		
3		
計	234	54,040

令和5年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	4,624
5	27	7,845
6	26	5,243
7	26	7,620
8	28	11,492
9	26	7,045
10	26	8,807
11	26	9,433
12	21	3,500
1	26	4,854
2	25	4,064
3	21	4,521
年度計	304	79,048

12月まで計	232	65,609
--------	-----	--------

前年同期比 82.4%

特別展・新収蔵品展等 (R6年12月まで)

展覧会名	開催日数	観覧者数
ベル・エポックー美しき時代パリに集った芸術家たち ワイズマン&マイケルコレクションを中心に	51	13,897
コレクション企画展「富岡鉄斎」展	33	8,484
山梨モダン 1912～1945 大正・昭和前期に華ひらいた山梨美術	45	7,086
超絶技巧、未来へ！ 明治工芸とそのDNA	33	8,197
アートキャンプ白州		
	162	37,664

特別展・新収蔵品展等 (R5年度)

展覧会名	開催日数	観覧者数
開館45周年記念 山梨県立美術館コレクションREMIX 収蔵作品の見方、「再編集」	45	8,246
ミレーと4人の現代作家たち	51	18,091
テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本	50	16,431
アーツ・アンド・クラフツとデザイン	50	13,872
	196	56,640

令和6年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	4,647
5	27	7,146
6	26	5,864
7	26	4,942
8	28	7,123
9	25	6,101
10	27	6,187
11	26	8,355
12	23	3,675
1		
2		
3		
計	234	54,040

令和5年度常設展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	4,624
5	27	7,845
6	26	5,243
7	26	7,620
8	28	11,492
9	26	7,045
10	26	8,807
11	26	9,433
12	21	3,500
1	26	4,854
2	25	4,064
3	21	4,521
年度計	304	79,048

12月まで計	232	65,609
--------	-----	--------

前年同期比 82.4%

特別展・新収蔵品展等 (R6年12月まで)

展覧会名	開催日数	観覧者数
ベル・エポックー美しき時代パリに集った芸術家たち ワイズマン&マイケルコレクションを中心に	51	13,897
コレクション企画展「富岡鉄斎」展	33	8,484
山梨モダン 1912～1945 大正・昭和前期に華ひらいた山梨美術	45	7,086
超絶技巧、未来へ！ 明治工芸とそのDNA	33	8,197
アートキャンプ白州		
	162	37,664

特別展・新収蔵品展等 (R5年度)

展覧会名	開催日数	観覧者数
開館45周年記念 山梨県立美術館コレクションREMIX 収蔵作品の見方、「再編集」	45	8,246
ミレーと4人の現代作家たち	51	18,091
テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本	50	16,431
アーツ・アンド・クラフツとデザイン	50	13,872
	196	56,640

特別展概要

R6 (2024) 年度 実施内容

ベル・エポック —美しき時代	【コレクション企 画展】 -没後100年- 富岡鉄斎 鉄斎と文人書画の 名品	山梨モダン 1912～1945 大正・ 昭和前期に 華ひらいた 山梨美術	超絶技巧、 未来へ！ 明治工芸と そのDNA	ドキュメント アートキャンプ 白州 記録映像で 蘇る夏 1988～2010
4月20日(土) ～6月16日(日)	7月20日(土) ～8月25日(日)	9月14日(土) ～11月4日(月・振)	11月20日(水) ～2025年2月2日(日)	2月15日(土) ～3月23日(日)
<p>ベル・エポックとは、19世紀末から第一次世界大戦開戦頃までパリを中心に繁栄した華やかな文化およびその時代を指す。当時、パリには様々な分野の芸術家が集まり、互いに交流しながらそれぞれの芸術を开花させ、今なおパリには当時の面影を感じることができる。本展ではその「美しき時代」の作品を取り上げ、文化の諸相を重層的に紹介した。なお、本展の中心をなした「ワイズマン&マイケル コレクション」は本邦初公開だった。</p>	<p>本年は富岡鉄斎が、大正13(1924)年に没して100年にあたる。鉄斎は、山梨の豪商野口家との親交が深く、野口邸を拠点に生涯で唯一の富士登山を行った。数多くの作品を野口家のために描き、現在、それらは当館に野口コレクションとして收藏されている。また、野口家には、南画の作品が数多く伝えられた。鉄斎没後100年にあたる本年、野口コレクションと当館の收藏する山梨ゆかりの近代南画を紹介することで、富岡鉄斎をはじめとする豊穡な文人の世界を堪能してもらった。</p>	<p>新しい芸術が華ひらいた大正期から昭和初期、山梨ゆかりの芸術家たちも様々な活動を展開した。本展では、大正期から終戦(1912～1945年)までの山梨ゆかりの芸術家たちの活動や当時の山梨の芸術的雰囲気を「山梨モダン」と称し、油彩、水彩、日本画、写真、挿絵、工芸など約100点を展示。土屋義郎、埴原久和代、米倉壽仁、望月春江、近藤浩一路など山梨ゆかりの芸術家のほか、横山大観や岸田劉生など関連する画家の作品や資料もあわせて紹介した。</p>	<p>多くの観衆を魅了した「超絶技巧！明治工芸の粹」展(2014、15年)と「驚異の超絶技巧！明治工芸から現代アートへ」展(2017～19年)。本展はその第3弾として企画され、明治工芸における超絶技巧のDNAを受け継いだ現代工芸と、超絶技巧が駆使された明治工芸を改めて紹介する展覧会。今注目の現代作家17名による木彫、漆工、金工、陶磁、ガラス、ペーパークラフト、刺繍などの作品と、明治工芸の逸品を合わせて約120点展示した。</p>	<p>1988年、「野外芸術祭」が未だ日本になかった時代、山梨県白州町(現、北杜市)に様々な表現に関わる人々が国内外から集い、「白州・夏・フェスティバル」が行われた。その後「アートキャンプ白州」、「ダンス白州」と呼称を変えながら、2010年まで続いた。その中心を担っていた田中泯(ダンサー、俳優)は、農村地から都市を逆照射するかのようには芸術の真髄を模索し発信した。本展では記録映像や資料を展示し、「アートキャンプ白州」を山梨県で改めて紹介する。</p>
				
<p>ジュール・シェレ《ムーラン・ルーージュ》1889年、デイヴィッド・E. ワイズマン&ジャクリヌ・E. マイケル蔵 ©Christopher Fay</p>	<p>富岡鉄斎 《富士山巔麓略図》 1875年 山梨県立美術館蔵</p>	<p>土橋芳次《美ヶ森》 1937年 南アルプス市立美術館蔵</p>	<p>福田亨(1994年生まれ) 《吸水(アゲハ)》*部分 2022年 黒檀他</p>	<p>Photo:Eiji Kitada</p>

R7 (2025) 年度 計画

<p>皇室の美と山梨 ～皇居三の丸 尚蔵館の名品～</p>	<p>ポップ・アート 時代を変えた4人</p>	<p>生誕100年 山下清展 －百年目の大回想</p>	<p>日本画 それぞれの挑戦 (仮称)</p>
<p>4月26日(土) ～6月1日(日)</p>	<p>7月12日(土) ～8月24日(日)</p>	<p>9月9日(土) ～11月5日(日)</p>	<p>12月6日(土) ～2026年2月1日(日)</p>
<p>皇室に代々受け継がれた美術品を収蔵する皇居三の丸尚蔵館。本展では、皇室の御慶事に際して制作された絵画や工芸品をはじめ、野口小蘆、富岡鉄斎ら山梨ゆかりの画家の絵画、水晶貴石細工や硯といった県産の工芸品、富士山や山梨ゆかりの地を主題とした美術品など、山梨に関係する様々なテーマで皇室の名品を紹介する。さらには、それらに関連した当館の収蔵品もあわせて展示することで、皇室と山梨をめぐる美術を鑑賞するまたとない機会となる。</p>	<p>「ポップ・アート」とは、大量生産された商品などの日常的なモチーフや、コミックや広告といった大衆文化をテーマとした芸術とその動向を指す。本展ではその後の芸術に大きな影響を与えたポップ・アートを代表する4人のアメリカ人アーティストのジャスパー・ジョーンズ、ロバート・ラウシェンバーグ、ロイ・リヒテンスタイン、アンディ・ウォーホルの作品を展示する。当館にとって本展は20世紀アメリカ美術を紹介する初めての機会となる。</p>	<p>山下清(1922/大正11～1971/昭和46年)の生誕100年を記念し、昭和の時代に“日本のゴッホ”とも呼ばれた放浪の天才画家、山下清の画業と人生を振り返る巡回展。緻密で繊細な表現、そして職人技といえる高い技術を示す貼り絵など約190点の作品に加え、気ままな旅に持参したリュックや、着ていた浴衣などの関連資料によって、その人物像と創作活動を紹介します。あわせて「貼り絵」芸術の素晴らしさを伝えようとする展覧会である。</p>	<p>“日本画”は近代の新語で、江戸時代以前の伝統的絵画とも西洋から入ってきた油彩画とも違う、新しい日本の絵画を表す役割を担ってきた。しかしながら“日本画”を定義づける要素は画材、技法、表現、モチーフなど多様で曖昧、不明瞭。“日本画家”たちは各々「日本画とは？」を自問し、伝統と革新の間で“独自の日本画”の表現を模索してきた。本展では「日本画滅亡論」が唱えられた戦後期を経験した画家を中心に、近代以降の日本画家の葛藤と挑戦の軌跡を探る。</p>
			
<p>野口小蘆 《悠紀地方風俗歌屏風》 1915年 皇居三の丸尚蔵館収蔵</p>	<p>アンディ・ウォーホル 《マリリン》 1970年 ルペレス・コレクション</p>	<p>山下清 《長岡の花火》 1950年 山下清作品管理事務所</p>	<p>のむら清六 《ハハコ像》 1966年 山梨県立美術館蔵</p>

美術館活動目標

山梨県総合計画において、県立美術館などの文化施設では、特色を十分に生かした企画展などの開催や教育普及事業の実施、展観環境及び資料保全環境の充実を図るなど、幼少期から本物の芸術・文化に触れる機会を提供することとしており、その実現のため、次のとおり活動目標を掲げる。

【展示／見る】

幅広いジャンルでの質の高い「特別展」とともに、西洋美術、山梨ゆかりの美術、日本の近現代美術などの「コレクション（常設）展」の一層の充実を図る。

【教育普及／学ぶ】

生涯学習の進展や教育課程における総合学習の充実化にともない、より多様な学習機会の提供を行う。

【付加価値・魅力／憩う】

本来の美術館機能に加え、さまざまな付加価値を充実させ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供を行い、文化観光の拠点をめざす。

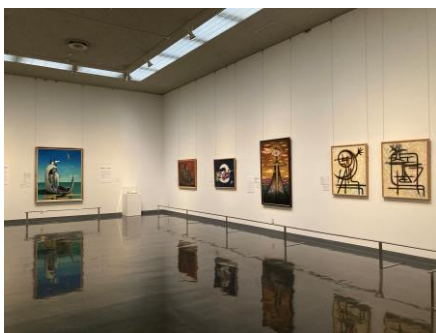
令和6年度の活動状況

【展示/見る】

【コレクション展】

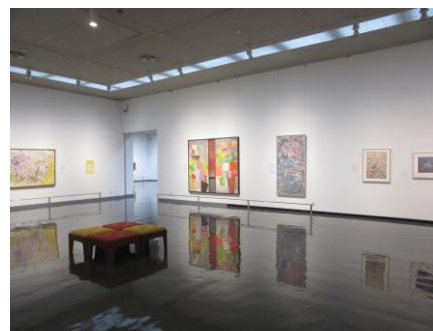
春季

「シュルレアリスムと山梨ゆかりの
コレクション」他



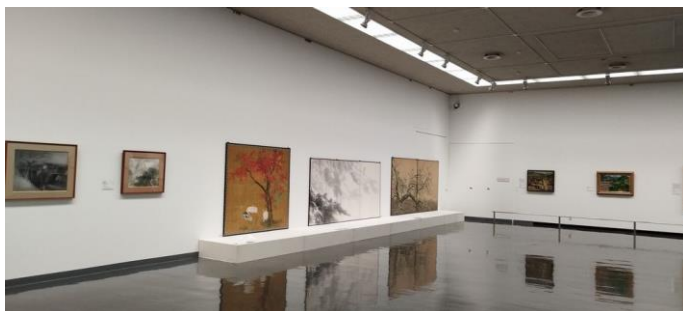
夏季

「みつけて かんじて」他



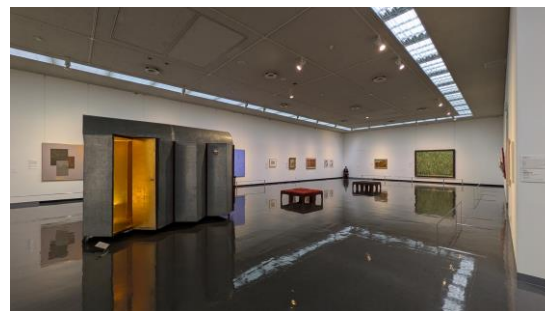
秋季

「もうひとつの山梨モダン」他



冬季

「すっきり or ぎっしり」他



【特別展】

※別紙「R6・7年度 特別展概要」参照

【キュレーターズアイ】

「**砺波周平展**」令和7年1月2日(木)～3月2日(日)



ハケ岳に暮らし、家族の日常や周囲の自然といった、身の回りの世界を撮りつづけている写真家・砺波周平を紹介

【付加価値・魅力/憩う】

[文化庁支援事業]

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

・文化資源デジタル化・コンテンツ開発事業



ミレー作品紹介
4Kプロジェクター



バルビゾン村紹介
タブレット

・作品鑑賞プログラム魅力増進事業



対話型鑑賞の研修
作品を前にしての実践



シルバーのための
美術鑑賞
ワークショップ
(認知症ケア)

【教育普及/学ぶ】

～学校教育との連携～ スクールプログラム

- ・県内外の学校、教育・福祉施設の団体来館者に対して、要望、対象に合わせた「オリエンテーション」「対話型鑑賞」「創作体験」などを行ってきた。
- ・遠足や校外学習での児童生徒の来館は昨年度より活気が戻ってきた。
- ・屋外の活動として、彫刻探検や彫刻のスケッチも実施している。



～学校教育との連携～ スクールプログラム

- ・ 山梨県立美術館から一番近い新田小学校とは、年間を通じて全学年の美術館訪問を計画している。6年生については1月31日に当館でのギャラリートークを実施した。
- ・ WEB会議システムで学校と美術館をつなぐ方法も学校との連携の一つの選択肢となった。今後、学校のインターネット環境が整えばニーズが高まり、美術館から離れた地域の児童生徒と美術館の展示室をつないで体験的な学習ができようになると思われる。



新田小6年 ギャラリートーク



塩山高校 出前授業

～学校教育との連携～

職場体験・インターンシップ

- ・キャリア教育の一環として、様々な事業所で職業について体験的に学ぶもの。
- ・当美術館では、令和5年度は7月5日・6日に4名、7月28日・29日に8名、8月1日・2日に6名を受け入れた。令和6年度は8月1日～2日、8月2日～3日の2部に分け、合計14名の中学生・高校生が体験した。

「教師のための鑑賞研究会」

- ・学校の教職員のために、特別展ごとに「鑑賞研究会」を実施。
- ・学校教育と美術館教育との連携。
- ・昨年度春季まではWebでの内容も組み合わせた。

教員研修

- ・山梨県総合教員センターとの共同開催により学校の先生方の研修も実施。当館での実施と総合教育センターにて初任者研修を行った。
- ・幼児教育研修、初任者研修の講義を行った。



教師のための鑑賞研究会

～キッズ・プログラム～ 造形広場／創作教室

〔造形広場〕

- ・元・山梨学院短期大学保育科教授
伊藤美輝先生に講師をお願いし、毎月1回実施
- ・幼児からどなたでも参加できるプログラム
- ・R5年9月まではコロナによる人数制限を行っていたが、R6年度は制限を行うことなく参加者を受け入れている。

〔創作教室〕

- ・本年度は、新春スペシャルワークショップとして、「ミレーを描く会」を1月3日に行った。



特別展関連ワークショップ

・特別展をより楽しく学ぶためのプログラムとして、どなたでも参加できる内容で実施

・令和6年度は、ベルエポック作品の技法にちなみ「リトグラフってなに？」(5月11日)、山梨モダンでは「山梨の和紙でレトロモダン柄のハガキを作ろう！」(10月13日)、超絶技巧では「わたしの羽根、ぼくの羽根」(1月11日)を実施。



美術体験・実技講座

- ・本年度は版画(リトグラフ、シルクスクリーン)、油彩画、日本画
- ・「オープンアトリエ」として、絵画や版画を制作する場所を提供



わかば講座（旧障がい者のためのワークショップ）

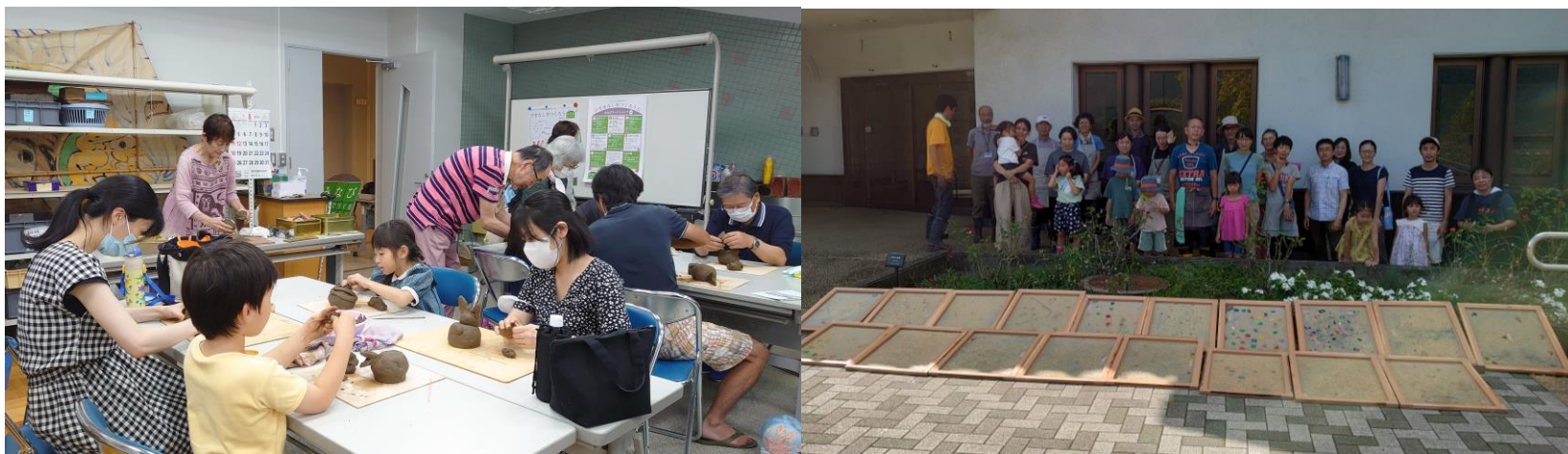
- ・障がいのある方を対象に行うワークショップを実施
- ・当館の教育普及の大きな柱として、あらゆる方々が、美術に親しんでもらえるような活動を行っている。

美術体験・実技講座

講座名	講師	講師指導日
はじめてのリトグラフ	作家：古屋真美氏	5月25日（土）
リトグラフ	作家：遠藤竜太氏	6月15日（土）、6月16日（日）、29日（土）、30日（日）
はじめてのシルクスクリーン	作家：天野純治氏	8月25日（日）
シルクスクリーン	作家：天野純治氏	9月8日（日）、15日（日）、22日（日/祝）、23日（月/振休）
わかば講座	作家：齊藤翔氏	10月9日（水）「てとてとてとてとてとてとてと」 絵の具や粘土を使用して、手のみで様々な表現を楽しむ、
油彩画	作家：飯野信二氏	10月19日（土）、26日（土）、11月9日（土）、16日（土）
日本画	作家：目黒祥元氏	12月1日（日）、8日（日）、14日（土）、15日（日）
オープンアトリエ		①版画 7月2日（火）～14日（日） ②版画 9月25日（火）～10月8日（火） ③絵画 2月11日（火）～26日（水）（予定）

みんなでつくる美術館（みなび）

- ・大人も子どもも、障がいのある人もない人も、アーティストも一般の人
も誰もが自由に参加でき、ワークショップにて楽しみながら作品をつくり
上げ、年度末の展覧会で作品を発表する事業
- ・令和5年度から「やまなしをつくろう」をテーマに開催しており、令和
6年度はその2年目として、山梨の伝統的な手仕事や素材に目を向け多彩な
作品を制作している。
- ・令和7年1月22日（水）～2月2日（日）の会期で開催する「みなび展」
で作品を展示した。



8月8日

「山梨の土でつくった土鈴を縄文野焼きしよう！！」

9月14日 「みんなで大きな和紙をつくろう」

対話型鑑賞プログラム 「アートでトーク」

- ・案内役と一緒に展示作品を見て、対話をするプログラム。
- ・作品を見て感じたことを言葉にすることで自分の考えを整理したり、自分とはちがう見方に触れたりして新しい作品鑑賞の世界を広げることができる。
- ・案内役は文化観光推進事業を活用して研修・体制作りを行った対話型鑑賞推進部のボランティアが務める。



新しい鑑賞のかたち

アートでトーク

おとなも こどもも

案内役と一緒に
展示作品を見て、
対話をする鑑賞会

さまざまな
作品の見方に
出会えます。

アートが大好き！
思ったことを言葉にするだけ！

1人では気づけなかった
見方、感性に出会えるかも。

鑑賞って苦手！
という方にもオススメ！

種をまく世界がひろく
山梨県立美術館
Yamanashi Prefectural Museum of Art
https://www.art.museum.pref.yamanashi.jp

文化庁
山梨県文化振興課
山梨県立美術館
〒400-0803 山梨県甲府市東川1-4-27 Tel. 055-228-3122 Fax. 055-228-3121

- ・事前申込制(当日申込みも可)で月に1~2回実施日を設けている。
- ・1回(1日)あたり5名1組を4組まで受け入れている。5歳以上の子どもを含めた家族での参加も可能な回も設け、幅広い年齢層を対象としている。
- ・事業の周知はチラシのほか、HPやSNS等で宣伝しており、県外からの参加者も少しずつ増えてきている。

シルバーのための鑑賞プログラム (認知症ケア鑑賞ワークショップ)

- ・ シルバー世代の方を対象に、当館の展示室で本物の絵を鑑賞しながらお話しをする対話型鑑賞プログラム。
- ・ 案内役は、認知症のある方との鑑賞について特別な研修を受けた専門家であるアートコンダクターが務め、認知症のある方にも楽しんでいただける。
- ・ 絵をじっくり見ることで、描かれているものに気がついたり、自分の身の回りのものや、これまでの人生などと結びつけたりして会話が弾み、その体験は認知症の予防につながる事が期待できる。
- ・ 令和6年度は10月3日に第1回を実施
次回は2月28日に実施予定



「ミュージアム・シアター」



- ・毎月1回、芸術や開催中の展覧会に関する映画を講堂にて上映
- ・映像という媒体を通して芸術の魅力を伝える、特別展をより多角的に楽しむ、また映画という芸術形態自体を楽しむことが目的
- ・受け入れ人数は、令和5年7月より先着70名、現在は80名としている。

最近の例

- 11月30日(土) 「見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界」
- 12月21日(土) 「ミステリアス・ピカソー天才の秘密」
- 1月25日(土) 「フェルナンド・ボテロ 豊満な人生」

今後の予定

- 2月22日(土) 「目の見えない白鳥さん、アートを見に行く」
- 3月22日(土) 「ヒッチコック／トリュフォー」